

トモダチ作戦の発案者に聴く

# 災害時における海兵隊の役割

## ビジョン岩国でエルドリッチ博士講演

10月19日午後7時より、弥生会事務所で開催されたエルドリッチ博士の講演会が開催されました。主催は「ビジョン岩国」。

エルドリッチ博士は1968年、米国ニュージャーシー州生まれ。神戸大学大学院法学研究科博士課程修了。「戦後日米関係における沖縄」で神戸大学政治学博士、大阪大学国際公共政策研究科准教授、2009年9月から在沖繩米軍海兵隊パトラー基地政務外交部長を務めています。

この日は10月20日に和歌山県と



連携して在沖繩海兵隊のオスブレイン2機が南海トラフ地震を想定した防災訓練に参加するため、それに関連して岩国基地に立ち寄ったとのこと。

博士の現在の主な仕事は、第三海兵遠征軍の政治顧問と地域交流であり、対象は首長から保育園児まで、ありとあらゆる層との文化交流。人材育成だそう。

日米同盟における在沖繩海兵隊の役割やトモダチ作戦について説明するエルドリッチ博士

人材育成の中には、いずれ自衛隊がオスブレインを運用する場合、オスブレインを操縦する自衛隊員を米国内の海兵隊学校に約2年間受け入れ、操縦訓練後、沖繩海兵隊で実戦訓練研修を受けるといったことも含まれるそうです。

これまで日本には海兵隊のような組織がなかったため、日本では海兵隊の役割を理解してもらったことが難しく、海兵隊の広報活動も重要な仕事といえます。

博士はこれまで超現場主義で徹底的に取材して研究してきたことを紹介し、大阪大学や沖繩、日本政府、自衛隊、米海兵隊の対応の違いや問題点を具体的に流ちょうな日本語で話されました。

米海兵隊の優れた点は、充実した教育体制と決断・決定の早い柔軟性にあるといわれています。米軍には海軍、陸軍、空軍ともにそれぞれ大学がありますが、海兵隊だけは大学は持たず、一般の大学から集めるため、思想や人種、宗教、出身地、階層、階級も多種多様な構成となっていますが、任務は常に命懸けであり、隊員たちはまとも、しっかりした基礎を確



トモダチ作戦を発動、東日本大震災被災地で救援に当たる米軍



自衛隊員と共に米兵も避難所で被災者支援を行った

立しているため、意思決定が早く確実だといえます。

博士は東日本大震災で逸早く被災地支援に貢献した日米軍の「トモダチ作戦」の発案者でもありました。阪神淡路大震災を経験している博士は、その教訓が薄れてきたことを危惧して2006年、こうした大規模災害時に米軍を国際支援部隊としてではなく、日米の共同災害派遣によって、より連携のある支援活動ができるよう、日本の防災計画に在日米軍を繰り入れるよう提言していらっしゃいます。

当初はなかなか受け入れてもらえず、「日本の危機管理と米軍ができること」を調べた上、2001

1年3月10日、東日本大震災の前日に、その提言を首相官邸に送付していました。

翌11日に大震災が発生、縦割り行政で硬直した行政には任せられないと政治力を使って、津波被害で使えなくなった仙台空港の早期復旧を図りました。派遣調整には14日未明までかかりましたが、海兵隊が乗り込んで15日から滑走路の復旧に努め、18日には世界や、この岩国基地からも救援物資を被災地にある仙台空港に運ぶことができるようになったそうです。

現在、この防災プログラムでは将来32万5千人が被災する場合も予測して、自衛隊と米軍が連携して救援に当たる訓練を行っています。

す。

これを実際に顔の見えるプロジェクトにしようと、静岡県をはじめとして各県とも合同で訓練を行っているのです。

講演後の質疑応答にも丁寧の答え下さり、予定していた時間はあつという間に過ぎ、まだまだ聞き足りない思いを強く持ちました。

時間が許すなら、ぜひまたお話を伺いたい、多くの岩国市民に博士のお話を聞いていただきたいと思っただけでした。

なお、博士は最近、テレビの討論番組「たかじんのそこまで言う委員会」に出演されたこともあります。